

# 「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」 帰国報告書

記入日：H29年5月15日

所属：教育文化学部 学校教育課程 4年次

氏名：佐々木 滢

派遣先大学名（国）：Memorial University of Newfoundland

ニューファンドランドメモリアル大学（カナダ）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2016年9月～2017年4月（約8か月）

渡航年月日：2016年9月2日

帰国年月日：2017年5月3日

## ○派遣先大学における授業等の履修状況

講義名	履修期間	講義時間 / 週	修得単位数
Introduction of Psychology	Fall Semester (秋学期)	150分 (50分×3コマ)	3単位
Introduction of Sociology	Fall Semester	150分 (50分×3コマ)	3単位
Introduction of Anthropology	Winter Semester (冬学期)	150分 (50分×3コマ)	3単位
Introduction of Folklore	Winter Semester	150分 (50分×3コマ)	3単位
Intensive English Bridge Program (IEBP)-level 2	Fall Semester & Winter Semester (秋学期と冬学期)	650分 (50分×13コマ)	

## ○研究・学習概要及び今後の勉学計画

私は、将来イギリスの大学院で教育の面での国際協力や国際開発を学びたかったので、「大学の授業をすべて英語で受けられるレベルへの英語力向上」、また日本の大学と欧米の授業スタイルは大きく異なるので、「欧米の大学での授業スタイルに慣れること」を目標としました。そして、この目標のために、ESL コースで英語力向上を図りつつ、履修科目は国際協力や国際開発専攻の土台となるような社会学系の授業を取りました。やはり学部授業は、教授の喋るスピードが速かったり、リーディングアサインメントはよく言われるようにとても多かったりと大変でしたが、チュートリアルを活用し、分からないところを質問するなどして、なんとかついていくことが出来ました。二学期目からは、英語力の向上を実感するとともに、現地の生活にもだいたい慣れ、時間的にも精神的にも少し余裕をもって生活することが出来ました。

帰国した現在は、大学院へ向けた準備や卒業論文へ取り組んでいます。そして、八月末からは教育実習が始まります。交換留学で得た英語力や多文化への幅広い視野をこれらに生かせるよう、残りの大学生活を一日一日励んでいきたいです。

## ○生活面について

メモリアル大学にはグレンフェルキャンパスと、これよりもずっと大きいセントジョンズキャンパスの二つがあります。私は二学期ともグレンフェルキャンパスで過ごしました。生活面については、書こうと思えば小さなことから大きなことまで沢山ありすぎて書ききれませんので、特徴的な二つに絞って書きたいと思います。

一つ目は、キャンパス全体で学生同士の交流が盛んなことです。大学側でも「International Night」というイベント（留学生が母国の伝統料理を振舞ったり、伝統衣装を披露したりします）や、「Hospitality Club」といった留学生と大学の職員さんたちが一緒に夕飯を作って交流するなどのイベントを開催してくれました。このようなイベントのおかげで、ESL コースや寮の友人以外にも幅広く現地の人々や留学生と交流でき、多文化交流も勿論ですが、それさえも超えた人と人との交流を堪能できました。また、私の留学先の地域がとても田舎だったこともあり、人々がすごく朗らかで、見ず知らずの人でも誰にでも親しく話しかけたり気遣ったりする面がとても魅力的でした。これは、私がこの留学の中で一番人として学ばせてもらったことです。

二つ目は、生活習慣についてですが、現地の人々は夜にお風呂に入らずに朝にシャワーを浴びるのが基本的なようでした。夜にバスルームの使用が重ならなくて済みますが、朝の身支度のときに（特に朝はあまり時間がないので）少し大変かなと思いました。また、ルームメイトとの共同生活も私は少し苦労しました。やめてほしいこと、気をつけてほしいことは初めのうちにやんわりとでも我慢せずに伝えたほうがよいということを学びました。他の留学生の友達がルームメイトと合わず、トラブルがあったりして、寮を変えていることもありました。国籍や文化の異なる人とルームメイトになり共同生活することは一見楽しそうに見えますが、気をつけなければならない事や大変な事もあるのだと実感しました。しかし、それも留学の醍醐味かなと思います。



※International Night というイベントで（本人：一番左）

## ○その他留学全般にわたる感想

交換留学先のカナダでの授業履修経験や現地での多国籍の人々との暮らしを通して、より将来へのビジョンが明確になり、また自分がどうしたいか、どうしていくべきかなどの自分自身への理解を深めることができたと感じています。また、他国で長期間暮らすことで、日本にいたるだけでは分からない日本のよさを実感することができました。（一番はやはり食事です...）一方で、教育制度や教育の質、そして環境に対する製品のあり方など、日本に足りない部分を感じることも多々ありました。これらの経験を通して考えたことや得たことを、これからの将来や日々のちょっとした中で生かしていきたいです。また、それをどう周りの人に伝えられるか、どのようによいバトンを繋げていけるかを考え、行動していけるよう頑張ります。

最後に、この留学を支え、応援してくれた家族や友達、国際課を始め大学の職員の方々に感謝の意を伝えたいです。ありがとうございました。

## ○渡航費補助について

金銭的な負担が軽減された分、心の余裕をもって留学の準備ができ、留学に臨んでいくことができました。留学は多額の費用が掛かる為、留学に躊躇する方が多いのは事実です。その躊躇する気持ちを少しでも軽減して下さる、このような取り組みに感謝しています。

私は、今回初めての長期留学で、期待よりも不安が大きくなることも度々ありましたが、寄付を通じて秋田大学生を応援して下さいている方々がいるということを感じることができ、とても心強かったです。本当にありがとうございました。



※3月でもまだ沢山雪の残っている Grenfell Campus 周辺